

営農情報 第8号

平成27年7月17日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1 コシヒカリの穂肥 ～登熟期間の稲体活力を維持しましょう！～

◎稲が穂肥成分を吸収し葉色が上がるように飽水管理を励行しましょう！！

(1) 分施肥系

2回目の穂肥の目安（5月11日田植えの場合）

施用時期	肥料名	10aあたり施用量	穂揃期の葉色目標
1回目穂肥の7日後 (7/24頃)	BB穂肥35号	10～13kg (砂壤土13kg)	4.2～4.5

※2回目の穂肥を施用しても葉色が4以下の場合、出穂3日前までに、BB穂肥35号で5～7kg/10a（砂壤土では7～10kg/10a）を施用してください。

(2) 肥効調節型（基肥一発）肥料体系

出穂7日前に葉色3.8（砂壤土では4.0）未満の場合は追加穂肥を施用する。

追加穂肥の目安（5月11日田植えの場合）

施用時期	肥料名	10aあたり施用量
出穂7～3日前	BB穂肥35号	7kg (砂壤土7～10kg)



2 コシヒカリの基本防除 ～カメムシ多発！防除の徹底で斑点米を防止！～

防除時期の目安（5月11日田植えの場合、防除時期は、出穂期を8月1日と推定して設定）

防除時期		出穂直前（随時）	穂揃期		傾穂期
		7月28～30日	8月4～6日		8月11～13日
粉剤	薬剤名 散布量 (使用時期)	ブラシンバリダ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラブサイドキラップ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)		スタークル粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤	薬剤名 (使用時期)	ブラシンバリダフロアブル (収穫14日前まで)	ラブサイドフロアブル＋キラップフロアブル (収穫14日前まで)		スタークル液剤10 (収穫7日前まで)
	散布量	1,000倍 150ℓ/10a	1,000～1,500倍 150ℓ/10a	1,000～2,000倍 150ℓ/10a	1,000倍 150ℓ/10a
対象病害虫		いもち病、紋枯病 ごま葉枯病	いもち病、ウンカ類、カメムシ類		ウンカ類、カメムシ類 ツマグロヨコバイ

※薬剤は決められた量や濃度を守り、畦畔や株元まで十分かかるように散布しましょう。

※殺虫剤を含む農薬の防除間隔は7日をめやすとし、10日以上あけないようにしましょう。

※農薬散布の際は、周辺の野菜等の他作物や住宅地への飛散防止対策に努めましょう。

《粒剤体系》

防除時期	出穂期10日前頃	傾穂期
	7月22日頃	8月11～13日
薬剤名	イモチエースキラップ粒剤 (収穫35日前まで) 3kg/10a	スタークル粉剤 DL (収穫7日前まで) 3kg/10a
対象病害虫	いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類、変色米	ウンカ類、カメムシ類、ツマグロヨコバイ

★★★粒剤使用の留意点★★★

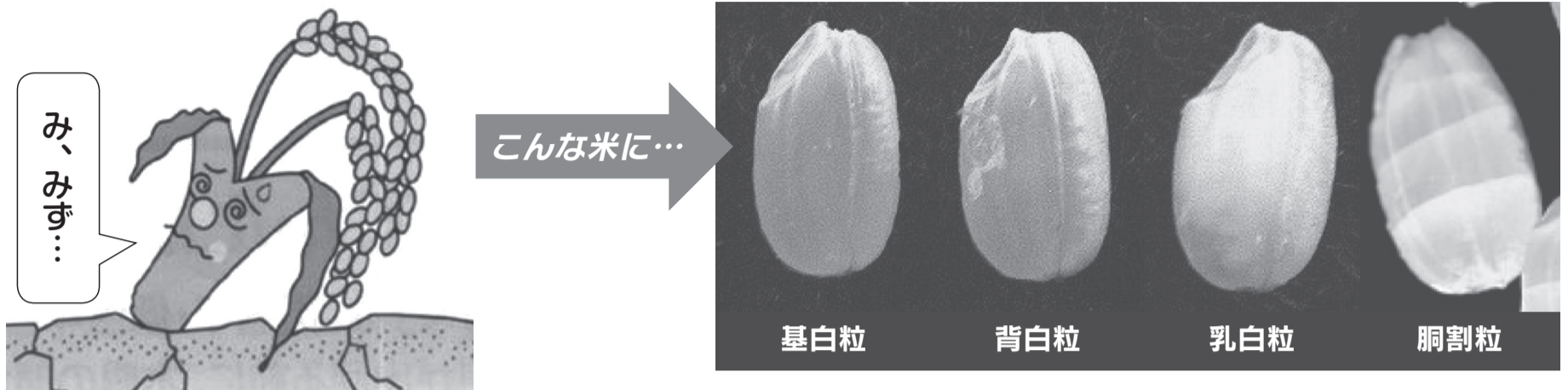
※農薬飛散の問題がある市街地周辺、稲以外の作物が隣接する場合に使用する。

※粒剤は、出穂10日前に湛水状態（水深3～5cm）で均一に散布し、散布後7日間は、落水及びかけ流しはしない。

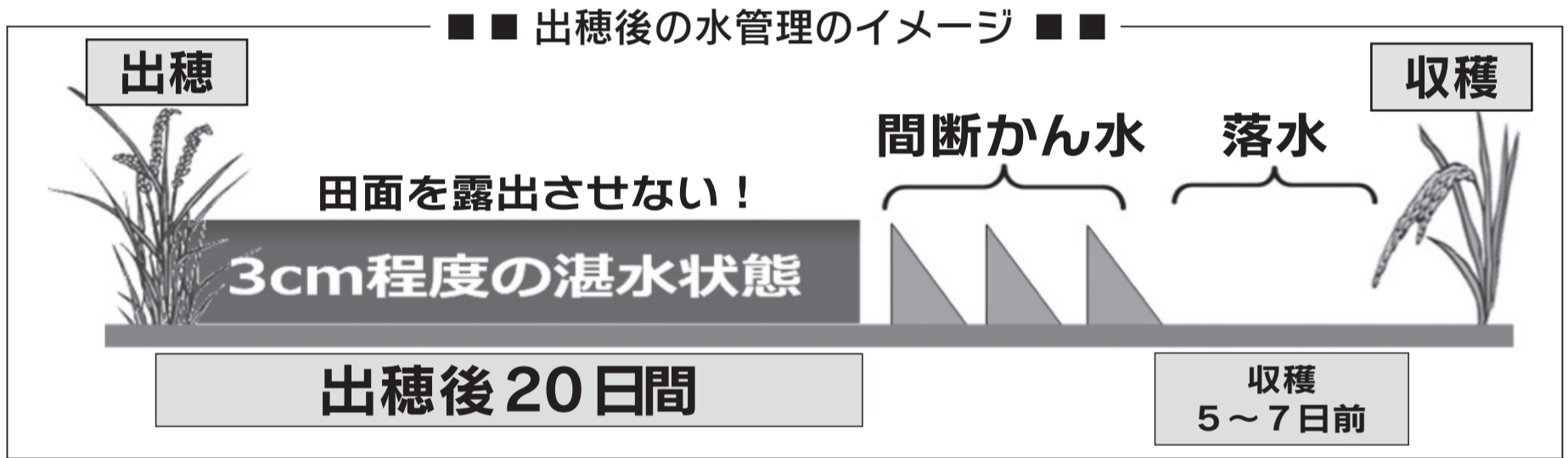
次回の営農情報（てんたかく刈取適期、乾燥調製等）は、8月13日頃の発行予定です。

3 出穂後の水管理 ～出穂後20日間の湛水等、水管理は確実に～

近年の登熟期間の高温により、水持ちの悪いほ場を中心に水分不足のほ場が見られます。この時期の水不足は、白未熟粒や胴割粒の発生を助長し、品質低下の大きな要因となります。



出穂後20日間の湛水管理とともに、その後も刈取5～7日前までの間断かん水といった適切な水管理を励行し、高品質な米に仕上げましょう。



(1) 出穂後20日間の水管理

出穂期までは飽水管理を実施し、出穂後20日間は3cm程度の水深を保ち、田面が露出し始めたら速やかに入水して湛水状態を保ちましょう。

また、適宜、水の入れ替えを行いましょう。



出穂後20日間の湛水管理の効果

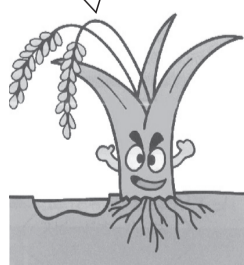
白未熟粒の発生抑制に効果が高く、稲体活力の維持とともに登熟や品質の向上が図れます。

(2) 収穫までの水管理

出穂20日後から収穫5～7日前までは間断かん水とし、適正な土壌水分を維持しましょう。

なお、フェーンが予想される場合は、事前に入水しましょう。

収穫5～7日前までは「間断かん水」



収穫5～7日前までの間断かん水の効果

登熟が良好に進み、乳白、背白粒等の白未熟粒や胴割粒の発生を抑制し、品質の向上が図れます。

【間断かん水の方法(以下を繰り返します)】

乾きやすいほ場…1日湛水→2～3日落水
乾きにくいほ場…1日湛水→4～5日落水